

俳句「一般の部」

加藤美佐代 選

優 秀 賞

百日を咲いて^{あざ}鮮やぐ百日草

伊原 ゑつ

「選者寸評」 俳句は季題が一番大切です。季題を見つけたら着目する要点を一句に仕立てます。この作者は百日草の生態にひかれました。名前の通り長期に渡り咲き続け、とりどりの色を咲かせ楽しませてくれる丈夫な花です。「鮮やぐ」という表現できどらない元気な百日草の畑の景色が浮かんできます。

^さ然りげなく柄杓が一つ岩清水

暮林 亮喜

「選者寸評」 歯朶の間から湧き上る岩清水の傍らに置かれた真っ青な竹の柄杓が、えもいわれぬ情景を醸し出します。誠に清浄な清々しいお句に仕上がりました。「然りげなく」がいいですね。

本日も丁寧^{ていねい}に生き忘れ草

清水 美智子

「選者寸評」 忘れ草とは萱草の花のことです。「のかんぞう」「やぶかんぞう」など散歩の途中や庭隅などによく見かける親しみのある花です。「丁寧に生きる」という言葉から一日一日の作者の生き様が想像されます。今日のことは今日のうちに解決するという潔い前向きなお句と受けとれました。